

新たに設置する気象観測装置（ドップラーソーダ）について

1. 気象観測について

排気筒から放射性物質が放出された場合、排気筒の高さ付近における風向・風速や大気の状態（大気安定度）といった気象条件が、周辺公衆の被ばく評価に影響を及ぼします。

このため、次の4項目について2013年6月から1年間の気象観測を行い、周辺公衆の被ばく評価の前提とします。

- ① 排気筒放出に係る高所の風向および風速
- ② 敷地を代表する地上風（地上高10m程度）の風向・風速
- ③ 日射量
- ④ 放射収支量

気象観測は基本的に既存の気象観測装置を用いて実施しますが、既存の設備では敷地上空の風向・風速としては地上高100m程度における観測しかできないため、ドップラーソーダという新たな気象観測装置を設置し、地上高50～100m程度の風向・風速を測定します。

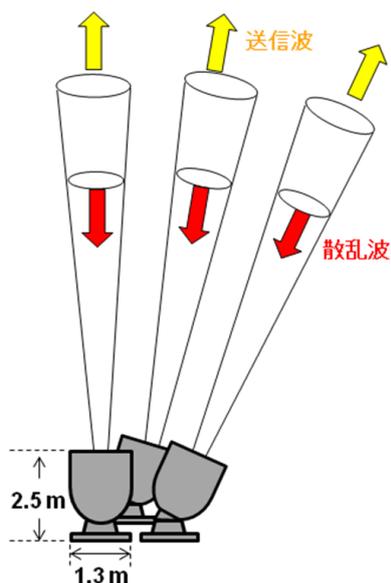
2. ドップラーソーダについて

【ドップラーソーダの設置場所】



発電所敷地内には、敷地を代表する気象データを取得するための観測装置を設置している「露場」があり、今回のドップラーソーダも、この露場に設置する予定です。

【ドップラーソーダの測定原理】



今回導入するドップラーソーダは、「3基の送受波機から音波を放射し、送信波と受信した散乱波の周波数のずれを検出することにより上空の風向・風速を測定する装置」であり、地上に装置を設置して上空の気象を観測することができます。